

特別対談

川崎から新たな産業革命を

NANOBIICオープン記念シンポジウム

新川崎・創造のモリにオープンしたナノ・マイクロ技術の産学共同研究施設「NANOBIIC」。慶応義塾大学・早稲田大学・東京工業大学・東京大学からなる4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアムが中心となり、中小企業、大企業とともに「NANOBIIC」の一つ屋根の下で、ナノ・マイクロ技術を用いた基礎研究から加工・試作、評価までの一貫通貫の研究開発に取り組む。ここで生まれた技術・成果は、京浜臨海部ライフィノベーション国際戦略総合特区との連携により、人類普遍の価値をもたらす課題克服と産業化、開墾した日本へのブレイクスルーへ繋がる期待される。ナノ・マイクロ技術を核としたライフィノベーション・グリーンイノベーションの実現を目指す川崎市の阿部孝夫市長と4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム代表を務める東京大学の松本洋一郎理事・副学長が対談した。



川崎市市長

阿部 孝夫氏

産業は人類の幸福のために

人類が解決できない課題に取り組み、多くの人に貢献する技術・製品を生み出すことにより産業に繋がっていくことが重要である。そして、その流れの中で出てきた成果が『京』や『山』の細い流れの中にも、必ずある。川崎市には、もともと優れたモノづくり技術があり、それをオメガナイズする企業群、さらには研究者・技術者が交流する土壌もあることから、研究開発の産業化を実現する基盤がある。今後の日本の産業を牽引する存在になっていく。

日本を引っ張っていく場に

阿部氏

競争しながらコラボレート

松本氏

NANOBIICの意義

NANOBIICはどんな拠点を指していますか。阿部 ナノ・マイクロ技術は、ライフィノベーション、グリーンイノベーションの基盤となる技術。川崎市では、現在、臨海部において、それを解決しないとい

インベンションとイノベーションの連続性

松本 今の社会は、いろいろな問題がからみあて

東京大学副学長
4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム代表

松本 洋一郎氏

問題を分析するのが科学技術。明治時代でも戦後でも、日本には長い科学の基盤が連続と続いている。それを多様な学術の中でインベンション（発明や創造）にしていくなかで、我々の最も重要な役割だ。山中教授は、ずっとIPS細胞の研究だけをやってきたのではなく、自分のテーマを変えてきている。専門化が進み過ぎた、たこぼしに入り込んでしまったのではなく、広い学術の中から先見性とヒントを得て研究した。グローバルな競争の中で、こうした自由な発想を支える学術基盤をこれから作り続けていくことが重要である。特に医療イノベーションは、ファンダメンタル（基礎的）な学術だけでは解決しにくい。いろいろな学術が組み合わさって、モノができて（製品化されて）、さらに経済的な合理性がないと医療イノベーションにならない。インベンションとイノベーションを分けた上

で、インベンションをいかにつないでいくかが重要。新薬の開発では、アカデミアにあるインベンションのシーズ（タネ）を製薬会社につなぐところが日本に弱い。基礎的研究を行うアカデミアやモノを作っているところへも投資が必要だが、さらにアカデミアでも企業側でもない。研究開発により、世界中にないものを生み出し、産業化に繋げなければいけない状況となっている。川崎の場合は、従来の産業構造から転換していかないと、いけない時期にきており、自治体が間に入り、地域の企業と、大学の研究開発のシーズとを結び付け、産業化への流れを作り出している。NANOBIICでのナノ・マイクロの先端研究も、大学や関連企業が集めて、基礎研究から製品開発までの一貫研究を同じ建物の中で進めることができる。日本の産業振興のために、川崎市がこうしたインフラを整備するなどの役割を果たすことが求められている。一昔前ではありえなかったことだ。新川崎・創造のモリに、すでに慶応大学のKスクエアタウンキャンパスがあり、川崎市の研究開発型のインキュベーション施設であるかわさき新産業創造センター（KBIC）もある。さらに、川崎にあるさまざまなモノづくり企業や研究機関の集積がある。4大学コンソーシアムと川崎市がタッグを組んだことには必然性があった。阿部 産業が集積すると、そこにひかれてさらに産業が集まってくる。集積が集積を生むようになる。松本 その通りで、集積は（一定の臨界点を越えれば）ますます増えていく。非線形を描く。



共働による成果の創出

松本 アカデミックフリーダム（学術や学問の自由）を最も重視していた時代は、狭い世界で競争していた。今はコラボレート、共働する中で競争する時代。そこでは誰と共働するかが重要になる。高い成果を出している人とならんと成果は出ない。そうした流れから自然に生まれたのが、慶応、早稲田、東工大、東大による連携組織、4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアムだ。阿部 産業界が集積する

かわさき新産業創造センター KBIC

Kawasaki Business Incubation Center

新しい産業の創造拠点として

インキュベーション

創業・新事業・新分野への進出支援

■経験豊かなインキュベーションマネージャー、アドバイザーが支援します

- 相談・あっせん(事業計画、経営法務、会計、資金調達、IPOなど)
- 企業交流(館内、地域)
- ビジネス・マッチング(個別、商談会・展示会)
- 金融機関、ベンチャーキャピタルなどとの仲立ち

基盤技術の振興・高度化

基盤技術の継承、人材育成の支援

■基盤技術に精通した技術コーディネーター、アドバイザーが支援します

【入居企業募集】詳細はホームページにて
http://www.kawasaki-net.ne.jp/kbic/

公益財団法人 川崎市産業振興財団
かわさき新産業創造センター(KBIC)

川崎市幸区新川崎7-7 新川崎創造のモリ地区
電話 044-587-1591 E-mail: kbic@kawasaki-net.ne.jp

かわさき起業家オーディション

ビジネスプラン募集中!!

【平成25年度開催スケジュール】

	第83回	第84回	第85回	第86回	第87回	第88回
応募締切日	4/4(木)	5/30(木)	7/30(火)	10/3(木)	12/3(火)	1/21(火)
最終選考会	6/7(金)	7/26(金)	10/4(金)	12/6(金)	2/7(金)	3/14(金)

中小企業のみなさまの経営支援

経営や技術などに関する相談からさまざまな経営課題の解決にむけて、専門家から適切な診断や助言を行います。

- 窓口相談 ●ワンデイコンサルティング ●専門家派遣

大学・企業パートナー探しの窓口～産学・産産マッチング

大学と連携し産学交流を通じて中小企業の新製品開発、新事業展開を推進しています。

KAWASAKI 公益財団法人 川崎市産業振興財団

〒212-0013 川崎市幸区堀川町66番地20 TEL.044-548-4111 FAX.044-548-4110
E-Mail: info@kawasaki-net.ne.jp http://www.kawasaki-net.ne.jp/